

# 森里海に学ぶ

## 大正大と三陸の連帯

- 12完 -



多田 孝文さん

### ●数々の反省点

東日本大震災から早くも3年が経過した。復興は、まだ向上へと走って、高度成長のために、石油や原発から得られる電力が、大いに役立つことが確かである。

### 大正大客員教授 多田 孝文

### ●林業の充実を

大正大学は、「森里海連環学」の講座を開き、「日本に健全な森をつくり直す委員会」の養老孟司委員長をはじめ、諸先生の指導による自然

# 日本の原点、森林再生を

途上、被災者とそれを支援する人々の不安は、増すばかりである。特に原発の災禍は、次々に難問が発生、それが復興計画全体の歩みを狂わせている感がある。思い起こせば、昭和30年代以降、国を挙げて経済至上主義・合理的生活の

学を学び始めた。日本の森林からの恵みは、里や海を潤し、材木は地域の人々の燃料や建材に活用しながら、利用する度、手を入れ整備されてきたのである。

### ●安らぎ求める

一方、国政も動きだし、「森林・林業再生プラン」を採用し、ようやく前進するようになった。実は、仏教の基本的

であるため、動物たちも餌を求めて里に現れては田畑を荒らし回り、地域の住民に傷害を与えるようになっていく。学生たちは、養老先生の「庭は手入れをするものだ」を聴き、竹内典之京大名督教授は現場での間伐や手入れの指導、C・W・ニコル先生のアファンの森での体験、など日本の森再生に向けて学び始めた。日本の森林再生には、林業に携わる人材の養成と意識

な教えも「人間と自然の営みと同根である」と捉えていて、自然の観察から、自然社会の一員として、真の人間のあり方の完成を目標にしてきたものである。

積迎(じゃか)の生涯も花園で生まれ、青年期には森林で修行、川での沐浴(もくよく)、菩提(ぼだい)樹下で終わるまで、自然とともに活動し、そこから見極めた真理をよりどころとして教えを説いたのである。そこで、以後の修行者もまた、花の開落、涼しい森、冷たい岩山、吹く風の香り、鳥のさえずり、動物の行動など自然の美しい営みを範として、安らぎを求めるので、多くの寺院は森林の中に建立されたのである。いま、寺院の所有する森林再生から始めたばかりであるが、日本の精神文化の原点を確保することが急務である。